

・日 時：平成 24 年 12 月 17 日(月) 14：00～17：30

・場 所：JGS 会館 地階会議室

出席者：國生，佐伯，赤木，太田，小椋，齋藤，菊池，高橋，坂上，伊藤，並河，松島，森川，清木
(西村代理)，橘，沓澤，青木(事務局)

・欠席者：内藤，石橋，石原，重村，佐々木，若井，後藤，竹山

1. 前回議事録の確認など

・平成 24 年度第 3 回運営委員会議事録 (10/16)

【別紙－1】

→承認された

・平成 24 年度第 1 回評議員会議事録 (10/22)

【別紙－2】

→確認した

2. 最近のスケジュール

・第 1 回評議員会：平成 24 年 10 月 22 日 (月)

・第 4 回運営委員会：平成 24 年 12 月 17 日 (月)

6. グループ別の実施計画・進捗状況・その他報告事項

(9) 研究委員会 G

【別添資料 2】

→今年度終了予定の(1)「地下水位の～」は報告書の執筆が年度内に終了しないことから，来年度引き続き，成果普及活動委員会として継続したい。(5)「造成宅地の耐震対策～」については，浦安市対応（毎月行う相談会対応）に対応するため，成果普及活動委員会として継続したい。

→前者については継続理由が不明確なため次回に持ち越し，後者については了承。

→「江戸期以降～」が大成建設自然・歴史環境基金の助成金を受けることになった。また，学会誌への掲載を希望していたシンポジウム報告については，「学会の動き」として掲載することになった。

→了承した。

→新規委員会は，現在まで商業的要素が強いもの 1 件しか来ていないため，テーマ募集の期間を延長したい。また，非公式に地盤リスクの委員会に関連して，司法関係の委員会の立ち上げを考えているとの話も来ている。

→締め切りを年末（12/28）とすることで了承。

→「戸建て住宅の手引書」の印刷販売については，講演会をするなどして，赤字にしないようにする。

→了承。

(10) 支部発表会 G

【別紙－26】

→10 月開催が良い，ということになった経緯は？

→9 月は土木学会年次講演会，11 月は地盤工学シンポジウムや地震工学会の大会がある，加えて，遅くなると企業の方が参加しづらくなることから，10 月となった。

→発表件数を増やした方が良い，そのためには，1 日では足りないという議論が前回あったと思う。

→今年度の発表件数は 200 件で，少し増やしても，特別セッションを少し減らせば一日でも対応可能。場合によっては近隣の会場も借りることができる。

また，前日に 1 部屋借りて，前日に準備を進められるように考えている。

→支部発表会 G での議論（経緯）等が皆にわかるようにしてもらいたい。また，今年度の発表会時のアンケート結果がどのように反映されているのかについても，同様をお願いしたい。

→議論の経緯については，次回の運営委員会（若しくは，それまでに）書面で紹介。

→支部発表会を東京で毎年開催ではなく，他県でも実施した方が良いとの意見もある。

→再来年度以降については，各県 G から参加いただいている幹事と共に，支部発表会 G で議論。

- 企業等の方が参加しやすいように、時間を後ろにずらすということは検討できないか。
- 今回は、会場の制約から5時までとなる。今後どうするかは議論が必要だろう。
- 10/18を第一候補、10/25を第二候補、10/11を第三候補とする（1日開催）。
- 10/18の場合、論文締め切りは9月10日頃になる。

3. 本部からの連絡・検討依頼事項

- (1) 会員・支部部長からの連絡について (10/23) 【別紙-3】
- 確認した。
- (2) 会費再請求について (10/25) 【別紙-4】
- 特別会員については依頼をするが、個人会員については支部として対応しないことに。
- (3) 平成24年度「事業企画賞」について (11/15ㄨ切) 【別紙-5】
- 確認した。
- (4) 平成24年度「地盤工学貢献賞」候補案について (1/21ㄨ切) 【別紙-6】
- 菊池幹事長から、元港研の堀江様を推薦いただいた。ふさわしい方がいらっしゃれば、年内に運営委員会メンバーにメールで連絡（審議）。
- (5) 「名誉会員・外国人名誉会員」候補案について (1/11, 12/28ㄨ切) 【別紙-7】
- 小島圭二氏、前郁夫氏、Malcolm Bolton氏を推薦。ふさわしい方がいらっしゃれば推薦いただきたい。
- (6) 平成24年度本部支部懇談会について (11/30) 【別添資料1】
- 参加した坂上副幹事長から、内容について紹介があった。
- (7) 「地盤工学会誌」会告記事について (12/17ㄨ切) 【別紙-8】
- 学会誌発行後、メーリングリストで配信後の反応を見ると、多くの会員はメールを見て申し込みをしているようである。
- 関東支部内で、どこから情報を得ているかについて、会員にアンケート調査（200名）をしてもよい。イベント時にアンケート結果（どこで知りましたか？といった質問に対する答え）も参考になるので、既にとっている場合は、その結果を、今後行事を実施し、アンケート調査をする予定があれば、質問項目に加えていただくことに。
- アンケート文案を高橋が考える。

4. 支部長特命事項対応他、運営管理上の報告・協議

- (1) 浦安市相談会への専門家派遣について 【別紙-9】
- 来年度については、引き続き、造成宅地の委員会で対応をお願いします。
- (2) 支部10周年記念事業準備委員会について 【別紙-10】
- ロゴについてはD案で。
- (3) みやぎ子ども教育支援ネットワーク協議会からの連絡について 【別紙-11】
- (4) H24年度予算執行状況について (11月末現在) 【別紙-12】

5. 開催結果、進捗状況の報告

- (1) 特別講演会「東京駅丸の内駅舎の保存・復原と赤レンガ高架橋」(10/22) 【別紙-13】
- (2) 野外巡検「さいたま市南部の地形・地質、防災と歴史」(11/10) 【別紙-14】
- (3) 平成24年度 神奈川県地盤工学セミナー(11/12) 【別紙-15】
- (4) 関東支部行事案内 <2012/10/30> 【別紙-16】
- (5) シニアエンジニア講演会「60年間の経験を語る くい打ち名人の匠技」(11/27) 【別紙-17】
- (6) 「栃木県の地盤」に関する勉強会(11/28) 【別紙-18】
- (7) 「”彩の国”市民科学オープンフォーラム大震災からの復興に向けて
地盤工学からのアプローチ」(12/03) 【別紙-19】
- (8) 「日本原子力研究開発機構東海研究開発センター見学会」(12/12) 【別紙-20】

6. グループ別の実施計画・進捗状況・その他報告事項

- (1) 会員サービス G 【別紙-21】

(2) 茨城県 G

→12/12 開催の見学会の参加者は 20 名強.

→高校生向け冊子がほぼ完成したので、印刷は年度内. 工業高校に配布・講演を来年度予定.
可能であれば、次回運営委員会時にでも、冊子の回覧をお願いしたい.

(3) 栃木県 G

【別紙-22】

→10 周年記念事業としておこなうシンポジウムの実行委員会の設置を承認.

(4) 群馬県 G

【別紙-23】

(5) 山梨県 G

(6) 千葉県 G

→12/4 に幹事会を開催. 10 周年については、液状化に関連して、習志野市、浦安市、我孫子市などの地方公共団体を巻き込んで、市民対象としたイベント（講演会）を開催したいと考えている.

(7) 埼玉県 G

【別紙-24】

(8) 神奈川県 G

【別紙-25】

→県職員への講習会は、どのようなスケジュールになっているのか？

→前年度 3 月に県から依頼があって、4 月に内容を幹事会で議論し、講師依頼、
10 月に実施という予定となっている.

(11) 企画総務 G

【別紙-27】

7. その他

(0) 広報委員会対外広報 WG 開催メモ

→関東支部（企画総務 G）も協力していく. 本部広報委員会の田中委員長が東京都教育委員会に、
防災教育のための副読本の作成への協力依頼をする予定なので、関東支部も同行する.

(1) 退会・等級変更届

甲府河川国道事務所（平成 23 年度末）

千葉工業大学畑中研究室（平成 23 年度末）

(2) 次回打合せ等

（2 月上～中旬. 去年実績：運営委員会 2/8, 第 2 回評議員会 2/23, 総会 4/23）

→運営委員会：2 月 4 日（月）14:00～17:00

→第二回評議員会：3 月 4 日（月）16:00～. 特別講演は、東北のがれき処理関係はどうか.

→総会：4 月 22 日（月）16:00～. 特別講演は、ボスポラスのトンネルの話はどうか（末岡会長に相談）.